

所沢市子ども・子育て会議
(平成27年度第1回)

会 議 録

平成27年7月24日

会 議 の 名 称	所沢市子ども・子育て会議（平成27年度第1回）
開 催 日 時	平成27年7月24日（金） 午後1時30分から午後4時10分まで
開 催 場 所	市役所低高層棟7階 研修室
出 席 者 の 氏 名	（会議録別表1）のとおり
欠 席 者 の 氏 名	藤澤 拓也（所沢市私立幼稚園協会） 五十嵐 俊昭（所沢商工会議所） 草刈 由美子（連合埼玉西部第四地域協議会） 本橋 奈穂子（市民公募）
説明者の職・氏名	
議 題	議事 (1) 特定教育・保育施設及び特定地域保育事業の利用状況及び利用定員について (2) 地域子ども・子育て支援事業の利用状況等について (3) 平成27年度所沢市子ども・子育て会議のスケジュールについて (4) その他
会 議 資 料	・資料1：特定教育・保育施設及び特定地域保育事業の利用状況・待機児童数について ・資料2：特定教育・保育施設及び特定地域保育事業の利用定員について ・資料3：地域子ども・子育て支援事業の利用状況について ・資料4：放課後児童健全育成事業について ・資料5：平成27年度所沢市子ども・子育て会議のスケジュール（予定）について ・追加資料：育児休業中の保育について
担 当 部 課 名	本田こども未来部長 及川こども未来部次長 こども政策課：岸課長、草薙主査、肥沼主任、中島主事 こども支援課：浅見課長 こども福祉課：青木課長 青少年課：井上課長、小池副主幹 保育幼稚園課：町田課長、野上主幹、小山副主幹 （事務局）こども未来部こども政策課 電話 04-2998-9415

(会議録別表 1)

所沢市子ども・子育て会議委員会名簿

	氏 名	出欠席状況	選出母体等
1	根ヶ山 光一	出席	早稲田大学人間科学学術院
2	加賀谷 崇文	出席	学校法人 秋草学園 秋草学園短期大学
3	広瀬 正幸	出席	埼玉県所沢児童相談所
4	岩淵 賢一	出席	所沢市立小中学校校長会
5	高田 美智子	出席	所沢市民生委員・児童委員連合会
6	須田 昭仁	出席	所沢市 P T A 連合会
7	小沢 貞泰	出席	放課後こども健全育成基本方針運営委員会
8	藤澤 拓也	欠席	所沢市私立幼稚園協会
9	喜多濃 定人	出席	埼玉県保育協議会
10	渡邊 秋則	出席	家庭保育室
11	牧 裕子	出席	地域子育て支援拠点事業運営団体
12	金丸 慎一朗	出席	放課後児童健全育成事業運営団体
13	五十嵐 俊昭	欠席	所沢商工会議所
14	渡辺 良雄	出席	所沢地区労働組合協議会
15	草刈 由美子	欠席	連合埼玉西部第四地域協議会
16	本橋 奈穂子	欠席	市民公募
17	仲 直子	出席	市民公募
18	平山 寿代	出席	市民公募
19	北田 奈巳	出席	市民公募
20	大鷲 賛美	出席	市民公募

発 言 者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
会長	<p>～ 開 会 ～</p> <p>会議成立の報告 会長挨拶 配布資料の確認等 傍聴希望者の確認 傍聴者入場（１０名） 傍聴者から録音の要望があったが、会議に諮った結果、録音は不可で意見がまとまった。</p> <p>本日の流れについては、先ほど事務局からの説明のとおりです。 議題１の「特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用状況及び利用定員」について事務局より説明をお願いします。</p> <p>議事</p>
事務局	<p>(1) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用状況及び利用定員について</p> <p>～ 事務局より資料１、２に基づき説明 ～</p>
会長	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問やご意見は、ありますか。</p>
委員	<p>すくすくサポートプランの平成２５年度認可保育園数等が挙げられていたが、それに当てはめた家庭保育室等の人数は平成２７年度ではどのように移行していったのですか。また、不承諾通知数という項目が以前はあったが、ここではどのように見たらよいのですか。そして、資料２の５ページにある２７年度３号認定１・２歳児充足量が７５から６０に減ったとはいえ、プラスになったという数字がでてくるが、待機児童数が１・２歳児で出てきているため、この数字と待機児童数の関係はどうなっているのかお聞きしたいと思います。</p>

<p>事務局</p>	<p>家庭保育室については、これまで18施設ありましたが1施設廃業になりまして、残りの17施設は小規模保育事業に移行しています。それ以外については、これまで認可外保育施設として運営されていたものからの移行でありまして、そのうちのひとつは事業所内保育所であり、新制度の事業所内保育所に移行しました。先ほどご報告しました資料2の3ページにあります(2)地域型保育事業の小規模保育事業A/B型と事業所内保育事業にすべて移行した形になっています。認可外保育施設として依然残っている施設も多数ありますが、こちらの施設数については今回の事業計画の中では取り扱う必要のない数字ですので、こちらの資料には示していません。</p> <p>不承諾通知数については、平成27年4月の申込みに対して、不承諾通知を出したのが377件となっています。この中には、現在在園中で他の園に転園希望されている方や、待機児童の集計の際にすでに申し込みを取り下げた方も含まれています。そのため、そのような方をすべて取り除いて入所保留児数169件を算出しています。</p> <p>充足量と実際の待機児童数の乖離については、あくまで事業計画書の量の見込みや確保の内容、充足量の考え方は、市の人口推計と平成25年度に実施しましたニーズ調査から得られた利用希望率との掛け算によって算出された統計的な数字になりますので、実際の待機児童数とは必ずしも一致しないこととなります。</p> <p>今回の計画書で申し上げたいのは、充足量が75から60となっても、まだまだ施設が足りているということではなくて、待機児童がいるという現状を踏まえまして、今年度も200人の保育園の整備を進めていますし、最終的には待機児童を解消する見込みで考えています。必ずしも待機児童数と一致することはありませんので、その点はご了承ください。</p>
<p>委員</p>	<p>不承諾通知数は、以前この会議の別の回るときに229件と示され、テレビ報道では380件くらいとなっていました、その違い</p>

事務局	<p>は何ですか。</p> <p>テレビで報道された数字については、そのテレビ局の判断で示されたものだと考えています。また、この会議の別の回で229件とお示したのは、なにかを差し引いた数で229件と提示したと記憶していますが、今手元に資料がありませんので、詳細なご説明ができません。</p>
委員	<p>では、ここでは377件という理解でよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい、そのようにご理解いただければと思います。</p>
委員	<p>1・2歳児の待機児童数に関して、統計的な数字で実際の数字と一致していないのに、それをここに記載してよいのですか。これだけ待機児童問題がクローズアップされているのに、事業計画書のこの数字では過剰になっていると示されていて、納得できません。</p>
事務局	<p>この表の数字は、市全体の数字になっていまして、実際の事業計画書では市内の11行政区ごとに算出しています。7ページにありますように、吾妻地区では不足しており、地区によっては、過剰となっている地区もあり、計画上、市全体では過剰となってしまいますが、今後も足りない地区に整備していくものと考えています。</p>
委員	<p>今年も保育園が3園開園していますし、事務局の努力には感謝したいと思います。しかし、今の説明では、これは市民や全国の人が見る資料なのに実際の数字とここに示されている数字が乖離してしまっているのは問題なのではないでしょうか。</p>
事務局	<p>市内全体を示すと、地区によって過不足がございますので過剰となる数字になってしまいますが、実際には事業計画書の中でも11行政区ごとに見ていきます。実際の数字と計画書の数字の乖離については、あくまでも全国一律の計画書を作成するにあたって、国の</p>

委員	<p>基準に従って、統計的な処理が求められており、傾向としての資料になります。当然、計画書の数字と実際の数字に乖離が生じた場合には、見直しをかけて保育園の整備をしていくと考えていますので、この数字がすべてではないとご理解いただきたいと思います。</p> <p>ところっこすくすくサポートプランの83ページの家庭保育室228人が今年度は0人になると考えてよいですか。それと認可外保育施設は631人が今年度はいくつになるのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>家庭保育室に関しては、この4月で全て小規模保育事業に移行、または廃業されたということで0になります。認可外保育施設については、確認の上、改めてお答えします。</p>
会長	<p>大変気になる数字ですので、誤解のないようなるべく丁寧な回答をお願いいたします。</p> <p>ほかにご意見ございますか。</p>
委員	<p>このような数字の出し方については、どの自治体も厚生労働省の指導のもとに算出しているため、致し方ない部分もあるかと思えます。これまでのカリキュラムの中で、所沢市は、居住区によって地域差、充足しているところもあれば不足しているところもあるということは分かっていたから、市全体の説明だけされても市の実態がわからないので、その辺を踏まえて、所沢市の実態に合わせた説明をしていただけるとわかりやすいと思えます。</p>
会長	<p>市全体の情報が示されていますが、地区ごとの情報のほうが重要な情報だと思います。その辺のニュアンスが正確に伝わるように工夫してもらいたいと思います。</p>
事務局	<p>(2) 地域子ども・子育て支援事業の利用状況等について ～ 事務局より資料3、4に基づき説明 ～</p>

会長	ご質問やご意見は、ありますか。
委員	<p>資料を見ると、子どもの数は減っているのに、放課後児童クラブへの入所児童数は増えています。たしかにこれから子どもの数は減っていくかもしれませんが、学童を利用したいという人は増えていくと思いますし、私は現在学童を利用させていただいていますが、まわりに入りたいのに入れない子たちが地域にたくさんいて、その子たちは学童のまわりに集まって遊んでいます。それは、子どもたちとしても、そこは安心できる場だという感覚があるからだと思います。ですから、なぜ量の見込みが減っていくのかということがわかりません。</p>
事務局	<p>子どもの数が減っているのに、入所児童数が増えている要因としては、人口推計で見るとたしかに子どもは減っていくのですが、共働き世帯が増えているという点が挙げられます。今のお話にありましたように、学童に入りたいけれども入れない子どもたちのことを考えますと、教育委員会で行っているほかごところ事業が10校、中富小学校で青少年課が行っているものが1つありますが、これらは地域の方のご協力が必要になります。ご要望が増えれば、今後このような取り組みをもっと増やしていきたいと考えています。</p> <p>今後、学童の定員を設定していかなければなりません。施設が足りないとかそういう問題も生じてきます。現在、さまざまな方策を検討していき、必要に応じて増改築を進めているところです。今後お示しできるようになりましたら、またこのような場でご説明させていただきたいと思います。</p>
委員	<p>どうして量の見込みは減るのですか。保育園の受け皿を増やすのであれば、学童保育の需要も増えていくわけですから、なぜこの数字が減っていくのかわかりません。</p>
事務局	<p>なぜ、計画の中で量の見込みが減っていくのかについては、人口が減少することが見込まれることによるものです。実際には、この計画書通りの数字にはなっていませんが、経年で利用者数の実態をふまえ、計画と乖離する場合は見直しを行います。</p>

委員	<p>保育園などに通う5歳児に対して、小学校に上がったときに学童を利用するかどうか調査をされたことはこれまでにないと思いますが、実際に小学校に入学するときに親が一番心配なのは学童に入れるかどうかということで、育児休業のお母さんたちは仕事に復帰するけれども学童に入れないのではないかと悩んでいるようです。量の見込みが実態に合っていない気がしますし、さらに確保の内容は入所児童数から見ると数字が大きくかけ離れていますので、なるべく早く実態に見合った調査をしていただいて、整備していただきたいと思います。</p>
委員	<p>私たちの運営する保育園では、保育園の中で自主事業として学童保育をやっています。卒園した子どもたちの行き場がないという事態を招かないために、支援センター内学童保育クラブということで何年も前から実施しています。その保育園のある三ヶ島地区では、年々子どもの数が減ってきています。先ほどの量の見込みのお話にもありましたが、地区によっては子どもの数が減少しているところもあるので、その辺を踏まえながら考えていかなければならないと思います。ただ、足りない地区には、方策を考えて対処していくべきだと思いますが、既存の施設などを活用しながら所沢市全体で、子どもたちのために何ができるのかということをもみんなで考えていく必要があると思います。</p>
委員	<p>地区によって、児童数が急激に増えていたり減っていたりするところというのはあると思いますので、保育園は地区別で量の見込みや確保の内容を示していましたが、やはり児童クラブについても同じように地区別に示すことが必要だと思います。市全体の資料でわかることと地区ごとの資料でわかる傾向というものがあると思います。今後は、児童クラブも地域ごとの児童数の推移がわかるような資料があればよいと思います。</p>
会長	<p>一括してしまうとあまり現実が見えません。地区ごとのデータを提示していただけると非常にわかりやすいと思います。</p>
委員	<p>資料3(4)と資料4の数字から考えると、所沢の子どもたちの抱える問題がいかに深刻かということがわかるかだと思います。申し込んだ子どもたちがやめていくのには大きな理由があると思います。</p>

	<p>それを私たち委員がつかむ必要があると思います。資料4の数字を見て、利用料の負担が軽くなったから利用者数が増えたというなら、なぜもう1か所でもクラブを増やさなかったのかと感じます。子どもは増えているのに、施設数は43か所のまま変わっていません。1か所に子どもが集中しているということです。その実態を4年間も放置していいのかなと思います。そういった実態を私たち委員が実際に見てきて、もっと学童を増やしたほうがいいのではないかと提言したほうがいいと思います。私は委員として、実際に視察をして本当に増やす必要があるかどうか判断していきたいと考えます。</p>
<p>会長</p>	<p>今のご意見は、前向きに検討していきたいと思います。たしかに私たち委員が、紙の上の数字だけで議論するということは、場合によっては危険なことです。ぜひ、そういうことも検討していきたいと思います。</p> <p>時間の問題もありますので、他にご意見がなければ次の議題に移ります。</p>
<p>事務局</p>	<p>(3) 平成27年度所沢市子ども・子育て会議のスケジュールについて ~ 事務局より資料5に基づき説明 ~</p>
<p>会長</p>	<p>ご質問やご意見は、ありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>子ども・子育て会議で、この先育児休業問題について議論することはないのですか。</p>
<p>会長</p>	<p>いえ、議論してまいります。今回も議題(4)その他において、取り扱うことになっています。今回は、この問題の経緯について担当の方から説明していただくことになりました。そのあと、委員の皆さんのご意見をうかがって、それをベースにしてこの問題について考えていきたいと思っています。</p>
<p>事務局</p>	<p>(4) その他 ~ 事務局より資料5に基づき説明 ~</p>

<p>会長</p>	<p>今いただいた情報は、ホームページでも確認できますので、もう少し詳細なお話をお聞きしたかったです。まず、最初に確認したいことがあります。私が、この問題について議題として取り上げてほしいと何度か要望したときに、この問題はこの会議で取り扱う内容ではないと言われ、ショックを受けました。こういうことについて議論しないというのは怠慢のそしりを受けるようなものであると考えていますので、この会議体のテーマであることを確認したいです。また、ここで議論して、議論したことが市のやっていくことに反映される可能性があるということを確認したいです。議題としても取り上げられない、臨時会も開いてくれないということでは、手足をもがれているような感じがしました。私たちは各団体の代表として来ているわけですから、その私たちの意見を集約して、よりいいものにしていきたいと考えています。そうでないという考えがありましたら、この場でお聞かせください。</p> <p>子ども・子育て支援法第61条にもそう書いてありますから、私たちはその責務を果たしたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>確認させてください。この議題を取り扱うのは、保育園等運営審議会と子ども・子育て会議のどちらなのでしょう。その役割を明確にしたほうがいいのではないのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>保育園等運営審議会は、市長の諮問機関となっています。今回、この育児休業中の問題に関しては、制度自体は変わりませんので、保育園等運営審議会に諮問しませんでした。</p>
<p>委員</p>	<p>どちらの会議で、取り扱うことになるのですか。つまりは、こちらの会議ということですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>本来は、議題として取り扱うのは保育園等運営審議会となります。</p>
<p>委員</p>	<p>今のところは諮問する予定がなく、この場で意見交換したことは</p>

事務局	<p>相応に反映していただけると考えて議論を進めて良いですね。</p> <p>この会議の中で、こういった意見があったかということは担当として承ります。</p>
委員	<p>この育児休業中の保育について、このように説明していただいてこちらでも理解したつもりでいますし、このことについて賛否両論あるかと思えますけれども、そもそも新制度が始まったときに、この会議において、新制度の説明を保護者に対して行ったほうがいいのではないかと話をさせていただきまし、市民公募の委員さんからもそういう意見があったと記憶しています。おおもとの新制度に対するきちんとした説明が、市からなかったというところから、今回の問題に発展したのではないかと思います。新制度開始以降でもよいので、保護者に対する制度の説明をしてから、育児休業中の保育についても後を追って詳しく説明したほうがよかったですのではないかと思います。</p>
事務局	<p>今回の件については、丁寧に説明すべきだったと考えています。</p>
委員	<p>この育児休業中の保育は、後退していることだと思います。3月に説明を受けたものと現在では、制度の内容が少しずつ変わってきています。もっと早く会議を開いていただいて、私たちの意見を聴いてほしかったです。この制度では、少子化も進んでしまうと思います。また、100点加算では、新たな待機児童が出てしまうのではないですか。市も、保育園を増設するなどしていますが、育児休業で退園した方の枠を、待機している方に譲ることが目的なのか、それとも育児休業中は家にいるのだからできる限り家庭で保育してもらいたいということが目的なのか、もしそうであった場合、現実のお母さんたちの状況とかけ離れていると思います。現実にはそううまくいきません。家庭環境はさまざまです。この広報の記事を読みますと、うまくいくような感じを受けますが、退園後かならず元の園に戻るかということもまだ不安に感じています。</p>

<p>委員</p>	<p>3月に説明があつて、4月から施行されるというのは、やはり無謀だったと思います。行政を責めるわけではないですが、保育所に勤める身としては、当事者と話し合いをしてこういった制度を決めていくべきだったのではないかと思います。子ども・子育て新制度というのは、子どもを育てていくこの日本という国をもっとよりよくしていくための制度だと思しますので、そこにきちんと視点を置かなければいけなかったのではないかと思います。一律に退園というのは、厳しいと感じます。いくつかの条件に当てはまる人は、退園しなくてもいいようになっていますが、そういうことではないと思います。子育てが大変な中、どうやってサポートするかが大事だと思います。育児休業をとる方は、仕事に復帰するので、集団で育ってきた子どもたちの友達関係を断ち切ることになりまして、産む月によっては、少し退園してまたすぐに戻ることになりまして、そのあたりが問題だと感じます。</p> <p>たとえば、上の子が3歳で下の子が入園するときは100点加算がありませんし、そこに不平等が生じてしまうと思います。保育士の立場からお話しますと、保育は1年を通して発達に合わせて計画を立てていますので、子どもたちの入れ替わりが頻繁に起こると、よくわからない状態になってしまいます。やはりこの制度は見直していただきたいです。</p> <p>待機児童を解消するのであれば、別の方法を考えていく必要があると思います。問題が出てくるたびに、それに切り貼りをするように制度を変えても、また新たな問題が発生してしまうと思います。子どもの数は減っていきますけれども、学童と同じで、利用する人は増えていきますので、それらを踏まえて制度を考えていくことが大事なのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、自分が子ども・子育て会議の委員であるのに、この育児休業問題についてテレビの報道で初めて知ったことがとてもショックでした。この育児休業の件については、今までの制度よりもむしろ良くなったのではないかと感じました。今までは、兄弟が同じ園</p>

	<p>に入れなかった方もいると思います。この制度では、兄弟同じ園に入れますし、年少以上であれば退園しなくて済みます。</p> <p>また、この会議は、保育園のことだけを話し合う場ではなかったはずで、所沢市で、現在どのくらい保育園に通われている方がいらっしゃるかわかりませんが、幼稚園に通いながら家庭で保育をされている方もたくさんいますし、幼稚園や保育園にも通わずに小学校に上がるまで家庭で子育てされる方もいると思います。ですから、この場で、保育園の退園問題だけを取り上げるのはどうかと思います。ひとつ気になったのは、「育児休業退園」という言葉です。「退園」と聞くと、すごく残酷な印象を受けますが、また園に戻れるのであれば「休園」というようなもっと柔らかい言葉でもよかったのではないかと思います。市の職員の方は、一生懸命この制度について考えてくださって、制度も良くなったと感じますが、もう少し保護者に不安を感じさせないように説明していただければ、ここまで大きく問題にならなかったのではないかと思います。</p>
委員	<p>本当に元の園に戻れるのかということが保護者としてはとても不安です。もし仮に、クラスの園児数が倍になった場合どうなるのですか。一番負担なのは子どもだと思います。私の場合は、育児休業中の保育の継続ができたのですけれども、いつもと同じではなくて少し早めにお迎えに行くとか週に何日かはお休みするというようなことをしていました。育児休業は、ただ休むためのものではなくて、職場復帰するための準備の期間です。育児休業で退園された方の枠を、待機されている方に譲るという形ではなくて、今現在家庭で保育している方に対してどのような支援をしていくか考えるほうがシンプルなのではないかと思います。</p>
委員	<p>事前の説明が不足していたと思います。待機児童数が少ないから、良い市なのかというと必ずしもそうではなくて、市民の子育てを市がどうサポートしていくかが、その市の子育てのしやすさにつながると思います。この制度は、0～2歳児はできるだけ家庭で子育てしましょうというメッセージが市民にも伝わっていると思</p>

<p>委員</p>	<p>ますが、最近は子育てが多様化してきています。その多様な子育てを市がサポートしていくというのが、一番良いと思うのですが、そういう意味では今回の制度は、市民の方に制約感を与えてしまったのではないかと思います。それぞれの人たちが自分たちらしく子育てするにはどのようにサポートしたらいいのか、ということについてもう少し議論する必要があると思います。この制度も一つのやり方だとは思いますが、その部分が伝わるような流れになっていなかったということについて今後考えていただきたいと思います。</p> <p>もう少し配慮のある説明をしていただけたらよかったですと思います。私の運営する保育園では、育児休業問題のことが載っていたので、国のパンフレットを保護者の方にお配りして新制度に関する説明を行いました。事前に、こういう制度になりますと説明しましたが、それでも、もうすこし丁寧な説明であったり、長い期間が必要であったりする気がします。私どもでは、幼稚園も運営していますが、先ほどの委員のお話にもありましたように、幼稚園の保護者の中では、どうして同じ税金を払っていて、保育園は得で、幼稚園は損なのか、という意見もあります。一概に、保育園だけ、という視点でこの会議をとらえてはいけないと思います。いろいろな方のための所沢市でなければならないため、いろいろな方の意見をお聴きしなければならないと思います。市には、そのような意見も寄せられているだろうと思います。保育園で協力できることは何でも行っていきたいと考えていますが、現在保育士が不足しています。保育士は一生懸命やってくれているので、ぜひ処遇改善など検討していただきたい。</p> <p>また、私の保育園では、市の職員の方が退園の対象となる保護者の方に面談を行ってくださいました。そのような丁寧な対応を、今後も続けていただきたいです。園のほうでも、支援センターや運動会などの各行事にどんどん来て下さいというように声掛けをしています。もっと地域に声をかけていく必要があると思います。</p> <p>委員</p> <p>15年前の私の妻の話になりますが、4つ離れた兄弟がいまし</p>
-----------	---

	<p>て、育児休業中に上の子から「お母さんは家にいるのになんで私は保育園に行かなきゃいけないの。下の子のほうが好きなの。」と言われたそうです。</p> <p>ここまでマスコミが騒いだことによって私が危惧しているのは、本当に手を差し伸べなければならぬ子どもが最後に外に追いやられていくようなことになってしまうのではないかということです。先ほどの資料でもありましたが、保健師が全戸訪問しているにも関わらず、450人くらい会えない家庭があるというのはどういうことなのか、そちらのほうが余程心配になる数字だと思います。</p> <p>最後になりますが、この委員の中で育児休業問題に関してテレビに出演された方がいます。やはり、この会議の場に挙げていただくことが先だったのではないかと思います。ご本人には、自ら信頼回復をしていただくか、もしくは会議として嚴重に抗議をすべきだという認識をしています。</p>
会長	<p>ここの委員でもおありだけれども、それぞれの団体の責任ある立場でご発言なさったのだと思います。</p>
委員	<p>私もこの件に関して、テレビの報道で知りました。退園させられるという点だけがクローズアップされていたので、なんという政策だろうと思っていました。しかし、退園させるだけではないだろうと思ひまして、いろいろな方にお聴きしてそうではないとの返答をいただきました。</p> <p>ただ、娘は全く違う反応で、わたしたちの年代と若いお母さんたちと考えていることのギャップがすごくあるのだという感じがしました。若いお母さんたちのニーズに合った、子育てしやすいようなきめ細かな政策でなければいけないなと思います。</p> <p>しかし、私はこの制度に賛成です。何度もこの会議で発言していますが、私はこれまで問題のある家庭、お子さんにかかわっていませんけれども100パーセント親の問題です。やはり小さなときの親との関わりはとても大事です。最近、親としての覚悟ができていない、自分が大事な親がすごく多いです。そういったことが、子ども</p>

	<p>もが成長したときに大変な思いをさせることになります。親の犠牲になったり、家庭の犠牲になったりします。子どもは虐待されてもネグレクトされても、お母さんが大好きです。この新しい制度が始まる時に、たしかに議論が足りなかったと思います。ただ、本当にやっと子どもが親の元に帰るのだな、親が子どもを見てあげられるのだと感じました。他の民生委員の方とも話し合いましたが、その方たちもすべて育児休業中は、家庭で子どもを育てるべきだと、本当に困っている子どもたちを見てきている私たちの意見としては、そういうことになりました。ただ、今の世代のお母さんたちが子育てしやすいように、ニーズに合ったきめ細かなサポートをしていただきたいと思いますけれども、まずは自分の子どもは自分で育てるのだという覚悟を持っていただきたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>私もテレビの報道で知ったときは、ショックでした。私は、子どもに関する仕事をしている身ですが、やはり子どもが3歳未満で小さいうちは、家庭で保育するのがよいと思います。私は、子育てをする間、仕事を辞めていましたが、その期間、公民館のサークルや児童館を利用して、そこで横のつながりをつくりました。仕事をしているとなかなか地域の友達ができませんでした。学校に行っても、なかなかクラスのお母さんとなじめずにいましたが、赤ちゃんの頃に地域でつながりを持ってたお母さんがいます。その方のおかげで、私自身孤独に感じることはありませんでしたし、子どもも地域の中で育っていったのだと思います。この制度に関して、賛成ですが、やはり説明が足りなかったのではないかと感じます。</p>
<p>委員</p>	<p>さまざまな子育て観や子育て環境があるので、一律に退園、家で子育てするべきだというのは、違うと思います。退園するのか、保育を継続するのか親が選択できるようにすればよかったです。この制度では、新たな待機児童が生じてしまいますし、本当は手をつなぎあって子育てしていく親同士の中で、椅子取りゲームが始まってしまいます。また、本当に同じ園に戻れるのか保障されていないと思います。保育園には定員があって、保育士の数にも限り</p>

委員	<p>があるので、そこを調整していくのはとても難しいと思います。</p> <p>一番いい方法は、待機児童を解消するために新たな場所を用意してあげることだと思います。</p> <p>平成12年に市の児童福祉課が出した通知には「3歳未満児の保護者の育児休業取得に伴う保育については、育児休業中における保育実施の継続申立書の提出により、保育を継続する」とあり、何の制約もありません。</p> <p>その通知が廃止されたというなら、その通知を見せてください。平成12年の通知というのは、話し合いを経て決定されたことです。今回の育児休業中の保育についても、もっと話し合いの場を設けて、十分にいろいろな立場の意見を聴いてほしかったと思います。</p>
会長	<p>新制度になって変わった部分もあると思いますが、皆さんの意見が多様だということがわかりました。切り貼りという意見もありましたが、ポジティブにとらえれば柔軟に対応しているということになります。意思決定に至るプロセスは非常に大事だということを知られました。ただ、4月以降改悪になった部分があるというのは、好ましいことではありません。実際には、市の対応の変化によってうまくいっている部分もあると思います。まだ、裁判の判決が出される前の段階ですから、話し合いを続けていくこと、それを参考に施策に反映させていただきたいと思います。</p> <p>皆さんそれぞれが、各団体の代表でいらっしゃっていますので、ぜひ各団体に持ち帰っていただいてまたその意見を持ち寄るという機会がありましたらそうしていただきたいと思います。</p> <p>この委員の交代の時期になっていますので、この議題を引き継ぐのか、それとも裁判の判決があったときにまた私が招集をかけるのかということは、市と私たちが力を合わせて取り組んでいきたいと思います。この会議体が、育児休業問題の外にあるということにはしないでいただきたいと思います。</p>

事務局	<p>今後、育児休業問題を議題として取り上げることについては、裁判の状況にもよりますが、今年度も第2回の会議がございますので、検討させていただきたいと思います。</p> <p>8月いっぱいまで現委員の任期は終わってしまいますので、新しい委員さんと第2回の会議において話し合うということによろしいですか。</p>
会長	<p>いま確たるイメージはありませんが、裁判の判決次第では、緊急に対応しなければならないことがないとも言えません。現委員の任期は8月末までですので、9月以降は新任の委員さんのご判断にお任せします。</p> <p>私は会長ですから、私が会議を開きたいと思ったときに、事務局と会議を開くかどうか相談したいと思います。</p>
委員	<p>私たち委員は、会議の際に報酬をいただいています。その予算は、開催予定分しかとってないと思います。ですから、臨時で皆さんボランティアの気持ちで集まっていたら、任期中であれば会長の職権で会議を開けると思います。ただ、今回の会議の続きといった形になると、市は予算をとらなければならなくなると思います。</p>
会長	<p>その発想は、私にはまったくありませんでした。そういうことも含めて判断していきたいと思います。</p> <p>それでは以上を持ちまして、本日の議題は全て終了となります。</p> <p style="text-align: center;">副会長挨拶</p> <p style="text-align: center;">～ 閉 会 ～</p>